

12th International Symposium on Crystallization in Glasses and Liquids (Crystallization 2017) 参加報告

長岡技術科学大学 物質材料工学専攻

本間 剛

Report on 12th International Symposium on Crystallization in Glasses and Liquids (Crystallization 2017)

Tsuyoshi Honma

Department of Materials Science and Technology, Nagaoka University of Technology

2017年9月10日から13日の日程で開催された12th International Symposium in Glasses and Liquids (Crystallization 2017)に参加した。この会議はICGの結晶化および結晶化ガラスに関するテクニカルコミッティ (TC7) が2,3年ごとに開催している。前回は2015年に長岡で開催されたが、今回はスペインのSegoviaで開催された。会場となったパラドル デ セゴビアはサラゴサの美しい街を一望できる高台にあり、特に夜はアルカサルと水道橋がライトアップされ素晴らしい眺めが楽しめた。

会議の開催に先立って10日にはTC7のビジネスミーティングが開催された。今回より筆者と華南理工大(中国)のShifeng Zhou氏、Ivoclar(リヒテンシュタイン)のMarkus Rampf氏が新たにTC7に加わった。

参加者による発表については11日の朝から口頭セッションが始まった。興味を持った読者のためにお断りしておくが、このシンポジウムは単一のセッションのみで構成するのが原則になっている。したがって口頭発表は原則1人1件くらいが目安で、締め切り間際で申し込むと口頭発表の機会を得るのは難しくなる。前回、長岡で開催した際、著者らもプログラムの編成には苦慮したが、参加者全員で結晶化に対する発表を理解したいというTC7の思いが今回も踏襲された。

主催者のMaría Jesús Pascual Francisco先生、Alicia Durán先生、そしてTC7のチェアであるJoachim Deubener先生らによるオープニングに続いて、招待講演11件と一般口頭発表があり、40歳以下の若手対象に6名(Susanne Krüger氏, Mariona Tarragó氏, Mikiya Kotaka氏, Carsten Blaess氏, Tina Waurischk氏, Laura Briese氏)が発表賞を受賞した。

今回の開催であるが、2020年にはパリでそし

〒940-2188

新潟県長岡市上富岡町1603-1

TEL 0258-47-9312

FAX 0258-47-9300

E-mail: honma@mst.nagaokaut.ac.jp



図1 会場から見た市街地の眺望

て2023年には中国で開催されることが決定した。3年に1度ではあるが、TC7としては今回同様に日本から多くの参加・研究発表をお願いしたい。

会議の最中に、透光セラミックスに関する発表が発端となり、「結晶化ガラスの定義」が熱く議論された。皆さんはどうお考えだろうか？結晶化ガラスの定義についてはJ. Non-Crystalline SolidsのCrystallization 2017特集号にTC7で寄稿するので、公開された際にぜひご覧いただければ幸いである。これ以外にもTC7でのアクティビティはICGのホームページ (http://www.icglass.org/home/technical_



図2 ビジネスミーティング後に撮影したTC7の面々

committees/) で紹介しているので時間のある時にお目通しいただきたい。



図3 参加者で記念撮影